

青い森鉄道利活用アクション事業
業務完了報告書

青い森鉄道利活用アクション事業
「青い森鉄道で探検～県境の奥州街道をゆく～」

平成22年2月

三戸地域資源発掘会議おっほの会

目次

- 1 はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
- 2 事業の企画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2
 - (1) 三戸地域資源発掘会議おっほの会設立
 - (2) 教育旅行コンテンツ作り
 - (3) 奥州街道
 - (4) 様々な主体との連携
- 3 事業の実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 7
 - (1) 事前の試験ツアー実施と改善
 - (2) 教育旅行実踏
- 4 事業の検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 17
 - (1) アンケート調査の結果と検証
 - (2) 三戸地域資源発掘会議おっほの会の検証
- 5 事業の検証を踏まえた展開・・・・・・・・・・・・ P 20
- 6 終わりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 21

1 はじめに

当団体は、平成 20 年青い森鉄道利活用アクションプラン実践パイロット事業・新幹線開業対策地域連携促進事業の協力を行う中で、同年 11 月「三戸町を元気にしたい・稼げる町に・子どもたちが誇りに思える町に」という、同じ想いの異業種の仲間による集合体「三戸地域資源発掘研究会」（仮称）として発足した。この任意団体で、三八地域県民局の依頼で仙台からの観光客 40 名に「地元名物きんかもち作り体験」の実施を経験することで、三戸町の良さ、また多くの資源を更に知ることにより、そこに潜む魅力が多くの人々に感動を与えることができると感じた。そこで、名称を「三戸地域資源発掘会議おっほの会」と改め、三戸町で行われる全国的ラージボール大会に於いての、ミニ観光ツアーの経験を重ね「着地型観光の魅力をもっと広く伝えたい、圏域でのネットワークを広げ、地方と都市をつなぎたい」等の考えから、特定非営利活動法人三戸地域資源発掘会議おっほの会の設立を发起し申請、平成 21 年 11 月 20 日認証される。

この青い森鉄道利活用アクション事業受託により、青い森鉄道を利用した教育旅行コンテンツの開発を通じて、継続可能な教育観光ビジネスに繋げるため、住民、NPO、企業、行政等連携体制を構築し、地域におけるマイレール意識の醸成を図ることを目指したものです。

- (1) 多様な主体が織り成す、協働・連携できる地域づくりチームの基盤ができ法人化へ向けてのステップとなる。
- (2) 教育旅行コンテンツの開発を行うことで、事業の継続が可能となる。
この事により、教育関係者も含め地域の鉄道に対するマイレール意識の醸成を図ることが期待できる。

2 事業の企画

青い森鉄道利活用アクション事業スケジュール

時 期	事業内容	具体的スケジュール
6月19日	コアメンバー会議 (1回目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青い森鉄道利活用アクション事業内容確認する。 ・ 具体的事業策定 <ol style="list-style-type: none"> ① 教育旅行コンテンツ作り ② 奥州街道をテーマにする ③ 事前実踏を行い改善する ④ 無から有を創り出す ⑤ 実証ツアー ⑥ 反省会と検証を行う ⑦ 報告書作成する
7月1日	見積書作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見積書を策定し青森県企画政策部並行在来線対策室に提出する。
7月	事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ ポスター作成完了
7月31日	コアメンバー会議 (2回目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象となる学校への案内配布についての検討
8月7日	コアメンバー会議 (3回目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルートの変更について (釜澤側の土砂崩れのため)
8月21日	コアメンバー会議 (4回目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正式ルートの最終決定確認 関係部署への挨拶回り
9月4日	事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学校、関係機関へのポスター郵送手続き完了
9月8日	中間報告会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間報告会出席
9月18日	コアメンバー会議 (5回目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者の確保についての検討
10月5日	コアメンバー会議 (6回目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前実踏についての確認を行う
10月6日	事前実踏	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガイド3名と救護班による事前実踏確認作業を行う。 ・ ルート時間と改善策の確認
10月13日	コアメンバー会議 (7回目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルート時間・改善策についての周知 ・ ガイドと救護班担当の役割
10月14日 15日	事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガイド資料作成・歓迎用旗の作成 ・ 観光客用パンフレット作成最終名簿確認 ・ 必要物品の(救急医薬品)購入
10月16日	事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目時駅トイレ清掃・借用物品の確認

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 寺・神社への挨拶
10月16日	コアメンバー会議 (7回目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最終的スケジュールの確認 ・ 持ち物確認 ・ 各関係部署との連絡・調整
10月17日	教育旅行実証ツアー実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 八戸駅まで出迎え、各駅にガイド配置しお客様の出迎えを行い目時駅にて開始の挨拶を行う。 ・ 乗車客28名・スタッフ13名・救護車両3台 ・ 茶屋準備車両1台
12月8日	コアメンバー会議 (8回目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全事業を見直して検証を行うと共に、来年度の事業の見通しをつける。
12月10日	コアメンバー会議 (9回目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第一次報告書を検証する。
12月25日	報告書提出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作成した第一次報告書を青森県企画政策部並行在来線対策室に提出する。

(1) 三戸地域資源発掘会議おっほの会設立

この団体は、平成20年度青い森鉄道利活用アクションプラン実践パイロット事業実施にあたり発足された、三戸地域資源発掘研究会が、平成21年度、特定非営利活動法人の申請に伴い名称を新たにした団体である。この団体は、特定非営利活動法人格を取得する事により、地域経済の低迷、住民の行政依存から脱皮するため、自ら着地型観光を企画・案内し、元気な三戸町・自ら稼げる町・子どもたちが誇れる町にするため、三戸町そして青森県の魅力を、多くの人たちに伝えて行き、鉄道を通じた地域づくりを目指し活動することを目的としています。

(2) 教育旅行コンテンツ作り

今回、教育旅行コンテンツ作りに取り組んだ背景として、子ども達の鉄道離れ、教育の鉄道離れがある。また、教育旅行が事業の継続可能につながると考える。

子ども達を含む教育関係者全般の鉄道離れに警笛を鳴らす事により、教育の中に鉄道を取り込み、歩きにより鉄道のもつ利便さを感じながら、地域の歴史・伝統・自然を知る機会とすることができると考える。

(3) 奥州街道

奥州街道は、江戸日本橋を起点とする近世「五街道」の1つである。

日本橋～宇都宮～白河～福島～仙台～盛岡～青森を結び、津軽半島の三厩へと続く日本最長の街道だった。

今なお残る奥州街道の岩手県と青森県の県境に、蓑ヶ坂と籠立て場がある。ここは、明治天皇が東北巡幸の際、籠を止めて絶景を楽しんだと言われている。現在も明治九（1876）年と明治十四（1881）年天皇御巡幸の記念碑が残っている。

青い森鉄道最南端の駅、目時駅より徒歩 1 時間ほどでこの地にたどり着く。この間は、奥州街道ではないが、この場所から奥州街道をスタートさせる事とし企画する。

《無から有を創り上げる》

① 当時あったとされる吉兵衛茶屋の設置

急な坂を登りきった所にあり、旅人を癒したとされる吉兵衛茶屋を復活させる。

② この地に伝わる蓑ヶ坂伝説を、昔々の語りべに語っていただく。

蓑ヶ坂伝説：「蓑ヶ坂の峠を通りかかると風雨が起り、都合よくそこには蓑と笠が置いてあるという。旅人は拝借するが、この蓑と笠は大蛇が化けたもので、旅人は沼に引き込まれてしまうという」釜澤地区は大蛇ではなく大ムカデである。

* 昔の言い伝えは、何を意味するのか？雨の際は危険だから峠を越えないようにと言うものではないか。雨の際は、急なのでとても危険である。

③ 道中の臨時茶屋

宿場町と言われた三戸町、当然あったであろう茶屋を臨時に設置し、旅人の疲れを癒す。

《三戸と会津のつながり》

① 戊辰戦争が終結し、新政府の命により「会津藩」は「斗南藩」となり新封土に移住を開始した。その時、陸を歩いてきた人たちは、この奥州街道を歩いてきたことを知る。

② 飛び地として、三戸に移り住んだ旧会津藩士により、建てられた会津三碑を巡る。

③ なぜ、三戸の地に日本最古の白虎隊碑が存在するのか、歴史を考えるきっかけとなる。

《この教育旅行の目的》

古来の人々が、如何にして江戸から東北まで歩いてきたのか、ほんの一部であるが、子ども達が体験することで、自然・歴史が創られてきた背景・人の偉大さを知ることが期待するものである。

《参加者》

① 時期的に中学校・高等学校は、行事が立て込んで折り学校としての参加は不可能との事

② 一般への呼びかけを行う事とする。関係部署や沿線各駅でのポスター掲示を行う。

③ 沿線の中学校・高等学校への個人参加のチラシを配布する。

(4) 様々な主体との連携

① 行政との連携

教育旅行という観点から、教育委員会との連携は欠くことができない事であり、三戸の歴史を伝える意味でも重要な位置を占めている。三戸町教育長の配慮により、

教育委員会の職員の実踏参加と、主要な三戸町歴史民俗資料館での説明に協力を頂くことが出来た。この事は、次年度へ繋げる為の架け橋ともなる。

通常開放されない祥鷹閣を開放することで、公共施設の一般開放促進へと繋げたいという観点から関係部署である三戸町総務課に依頼し活用が可能となった。今後、この施設を含めた公共施設の利用促進へ繋げていけると確信する。

② 三戸町神社仏閣との連携

三戸町中心には、1神社7寺院がある。昨年度から実施している事もあり協力的である。事前に関係する神社や寺院に対し、見学と説明に関する依頼を行い協力体制が出来ている。しかし、寺院に関しては、突然の事由が発生することがある為、説明の部分は当団体のまち歩きガイドが行うことで了承を得る事としている。三戸大神宮では、細部にわたる説明をして頂くことができています。

③ 地元商店街

食事提供に際し、地元割烹白山さんが快く要望に答えて頂くことが出来、美味しい昼食を提供できた。

ふだん観光客が少ない為地元商店街では、お土産という感覚で商売をされていない。そこで、道の駅などに出していない、せんべいの柔らかいみみや城山饅頭などを祥鷹閣で販売する事にし、商品提供の協力を頂いた。

④ 地元交通事業者

城山公園から三戸駅までの移動は、貸切バスを利用することとした。昨年度は、三戸町内3箇所のタクシー会社さんを利用した事もあり、今年度は地元南部バスにお願いすることとした。南部バスを始とし他のタクシー会社を含め、地元交通事業者と鉄道利用との連携を進めて行く必要性も視野に入れていきたい。

掲示ポスター

青い森鉄道で探検

10月17日
(土)

青い森鉄道利活用
アクション事業
教育旅行実証ツアー



県境の奥州街道三戸宿を歩く



南部藩の歴史



会津・斗南藩との縁

青い森鉄道に乗って出発します。(青い森鉄道運賃は各自負担)

八戸駅 8:45 集合 (八戸駅改札前に集合)

八戸発 8:52 発 (近隣の路線駅から乗り込み可能)

目時駅 9:18 到着 (説明・トイレ休憩)

目時駅 9:30 出発 → 龍立て場 10:30 着 吉兵茶屋 大型紙芝居

八日町 12:20 着 会津藩縁三碑巡り → 城山公園 13:40 着

昼食 民俗資料館入館見学

城山公園 15:20 出発 (貸切バスにて移動)

昼食: 500円 民俗資料館入館料無料

三戸駅発 15:44 (青い森鉄道八戸方面)

詳しくは 下記までお電話下さい。(お電話はPMをお願いします。)

*イラストはイメージです。

主催・実施団体: 三戸地域資源発掘会議おっほの会 {TEL・FAX0179-20-0073}

協力団体: NPO法人どんぐりの家 観福寺 三戸大神宮 悟真寺 後援: 三戸町総務課 三戸町教育委員会

参加定員: 40名 応募締め切り: 9月30日

参加申し込み

参加者氏名 _____ 年齢 _____ 所属 _____

住所 _____ 電話番号 _____

乗車場所 _____ 昼食購入 有 ・ 無

3. 事業の実施状況

(1) 事前の試験ツアー実施と改善

平成21年10月6日、ガイド3名と救護班担当合わせ4名による、事前実踏を行い危険箇所の確認ならびにスケジュールの調整を行う。

- ① 危険箇所：・電車からの乗り降り ・国道横断（2箇所） ・急勾配（3箇所）
・籠立て場絶壁 ・沼 ・犬 ・道路横断（随所）
- ② スケジュール：時間配分修正なし、但し最後の城山公園への登り困難な方は、救護車両使用とする。
- ③ 必要物品確認：トランシーバー5個・黄色の旗6本（道路横断時使用）
各救急医薬品準備・携帯電話番号登録
- ④ 関係各寺院への再確認：関係各寺院にて、当日の案内について確認を行う。
- ⑤ ガイドの調整：参加人数によるガイドの調整を行う。（別表参照）
- ⑥ ガイドテキスト作成：道中の野草等についての記述する。歴史については、簡単に触れる。質問等に備え、準備行う。
- ⑦ 必要物品準備作業：下記写真のものを準備する。



参加者の目印として配布する
おっほ（ふくろう）のバッジ



参加者のテキストとガイド用の
テキスト



歓迎用の旗



救急用の医薬品

⑧ 事前実踏の撮影：駅と周辺の野草



目時駅（前後にトンネルが見えます。）



めくらぶどう

のぼらの実

げんのしょうこう



野生のほっぷ（ところ）

つるうめもどき

クコの花



姫りんご

むかこ

いちいの実（おんこの実）



やまぶどう

孔雀草

秋明菊

事前計画表

10月17日(土) 青い森鉄道で探検～県境の奥州街道三戸宿を歩く～

時間	内容	リーダー		ガイド			サブガイド			教護班			現地ガイド
		西山	西国	久慈	釜澤	加藤	北村	梅田	坂本	竹原	金崎		
8:00	三戸駅集合	西山迎え(久慈・西国)三戸駅集合 切符購入 8:12発八戸駅乗車する。											
8:35	八戸到着	3人分切符購入		お客の出迎え									
9:00		8:52分発盛岡行き乗車			三戸駅集合 三戸乗車客乗客し名簿確認			剣吉駅に集合し名簿確認する。確認後、目時駅へ移動する。			目時駅ホームで一行の迎え		
		車中でのお待ち成し。安全確認			乗車券3人分購		名簿確認		お客の乗車券購各自入確認				
9:19	目時駅到着 トイレ休憩 説明	トイレの説明 ガイドの紹介 班分け 日程の説明		1班ガイド	2班ガイド	1班サブガイド	2班サブガイド	サブガイド 道路安全確認		目時駅で見送り後、10:30までに沼尻へ移動し待機する。			
9:30	籠立て場へ向け出発する	タイムキーパー		1班ガイド	2班ガイド	1班サブガイド	2班サブガイド	サブガイド 道路安全確認					
10:30	籠立て場到着	休憩の説明		普話									
11:00	籠立て場出発	タイムキーパー		班の人数確認	班の人数確認	班の人数確認	班の人数確認	サブガイド 道路安全確認		梨の木平にてコーヒーストップ準備		沼尻で相馬さんと図書館へ移送する。	
12:20	八日町へ入る。	三戸町役場駐車場待機する。											
～ 13:20	会津線の三碑 巡り	歩行できない方を車で移送する。											
13:40	祥慶閣に入る 昼食	集合時間説明 食事代金徴収		接客 食事					みやげ物を手配する		祥慶閣に入る。		
	温古館見学自由	温古館案内											
15:20	バスに乗車	誘導		班の人数確認	班の人数確認	城山公園で見送り							
15:44	八戸行き	三戸駅で見送り											

行程表



行程 青い森鉄道目時駅～籠立てば～沼尻～梨の木平～八日町～城下～青い森鉄道三戸駅

集合 八戸駅改札口前(事前に目時駅までの乗車券を各自購入して下さい。)

八戸 駅出 発	8:52—9:18	目 時 駅 到 着	9:18—9:30	目 青 時 い 森 出 鉄 発 道	9:30—10:00	籠 立 て ば 入 り 口	10:00—10:30
	車中20分		12分		徒歩30分		徒歩30分
	青い森鉄道盛岡方面		・3グループ編成 ・注意事項等説明				
	所要時間30分		所要時間1時間		所要時間30分		所要時間1時間
籠 立 て ば 到 着	10:30—11:00	吉兵茶屋復活と地元に残る民話 大蛇 伝説の大型紙芝居を披露	籠 立 て ば 出 発	11:00—12:20	会 津 三 碑 巡 り	12:20—13:20	
	休憩30分			徒歩80分		徒歩60分	
				沼尻～鮫口～梨ノ木平～八日町		観福寺～三戸大神宮～栢真寺	
	所要時間1時間30分			所要時間2時間50分		所要時間3時間50分	
佐 瀧 邸	13:20—13:40	自 由 時 間 ・ 昼 食 ・ 自由時間	13:40—15:20	城 山 公 園 出 発	15:20—15:30	三 戸 駅 出 発	八戸方面15:44発
	徒歩20分		1時間40分		バス10分		
	佐瀧邸を望みながら城山公園へ		城山公園内の祥慶閣にて昼食と自由時間 温古館等見学あり		三戸町バスまたは南部バスにて		目的地へ
	所要時間4時間10分		所要時間5時間50分時間		所要時間6時間		

目的:三戸地域の文化遺産を歩きながら、三戸地域の歴史や文化を学ぶ

(2) 教育旅行実踏

① 実施日時：平成 21 年 10 月 16 日（土）8：00～16：00

② 実施メンバー：13 名

全体リーダー（1）西山

メインガイド（2）西国・久慈

サブガイド（4）釜澤・古屋敷・北村・加藤

寺院ガイド（1）金崎

救護班（車両 3）梅田・竹原・坂本

吉兵茶屋（2）古尾夫婦



③ 参加者 28 名 八戸駅乗車：7 名

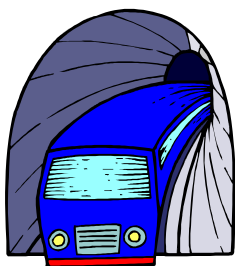
高岩駅乗車：2 名

剣吉駅乗車：2 名

諏訪ノ平駅乗車：4 名

三戸駅乗車：11 名

目時駅で合流：2 名



④ 実施内容

(ア) 実施スケジュール

日程（ほぼ徒歩・バス乗車 20 分）

八戸駅 8：45 集合（八戸駅改札前に集合）

八戸発 8：52 発（近隣の路線駅から乗り込み可能）

目時駅 9：18 到着（説明・トイレ休憩）

目時駅 9：30 出発 _____ 籠立て場 10：30 着 吉兵衛茶屋とみのが坂に伝わる民話

籠立て場 11：00 発 _____ 八日町 12：20 着 会津・斗南藩縁の三碑巡り

城山公園 13：40 着 昼食 希望者温故館見学 城山公園 15：20 _____

南部バス乗車 _____ 三戸駅 15：44 （青い森鉄道八戸方面）

(イ) 実施状況

リーダーとメインガイド 2 名が、三戸駅から青い森鉄道で八戸駅に向かい、八戸駅から乗車の 7 名のお客様を出迎えました。一緒に、8：52 発の青い森鉄道盛岡行に乗車しています。各駅でスタッフがお客様を出迎え、車中で会話を楽しみながら目時駅へ向かいました。



目時駅に到着後、グループ編成とスタッフ紹介と軽い準備体操を行い、トイレ休憩後出発しました。



(1 班の説明風景)



(2 班の説明風景)



(1 班の出発)



(2 班の出発)



(目の前に見えるのは眼の神様薬師堂)



(後ろの山々の紅葉を振り返り)



国道からの入口に看板があります。本来の奥州街道ではなく、東北自然歩道となっております。





(落ち葉が腐葉土を作り、クッションとなっているため、脚の負担は少ないです。)



左右対に残る一里塚

(東の塚から西の塚を望んでいます。)



吉兵衛茶屋の設置

つらい坂道を登り切った絶景地、籠立て場に吉兵衛茶屋が甘酒とあんこ餅、漬物が、身体を癒してくれます。心を癒すのは、古くから伝わる蓑ヶ坂伝説のお話でした。





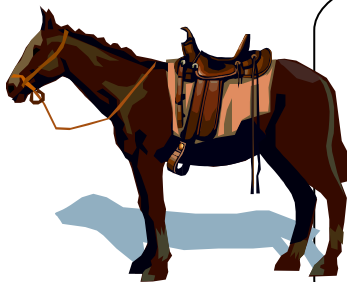
明治天皇もご覧になったという絶景地（舌先・釜沢地区）



（蓑と笠を前に蓑ヶ坂伝説を語る、語りべ）



籠立て場を後にし、奥州街道を下ります。蓑ヶ坂伝説に出てくる**鞍沼**
10年前までは、**じゅんさい**が採れていたようですが、農薬の影響で沼の
土がヘドロ化してしまいました。化学の進歩がもたらした傷跡です。



鞍沼伝説：蓑ヶ坂の峠を通りかかると風雨が起こり、都合よくそこには蓑と笠が置いてあるという。旅人は拝借するが、この蓑と笠は大蛇が化けたもので、旅人は沼に引き込まれてしまうという。噂を聞いた南部のお殿様が、化け物退治に玉山兵庫を使わし、蓑と笠に化けた大蛇を一太刀に、主を亡くした沼に新たな化け物が住みつかないように、馬の鞍を沈めたことから鞍沼と呼ばれたそうな！



(ひたすら歩く道のりが待っています。)



簡易の茶屋が疲れを癒してくれました。)



三戸宿場町に入り、同心町を経て八日町に入ります。いよいよ会津三碑巡り

観福寺の山門は、三戸代官所の門が移されたものです。玉岑寺、妙光寺と三寺がかたまっている真中に位置し、日本最古の白虎隊の碑と十二面観音菩薩があることで有名です。



天照大神を奉納する**三戸大神宮**は、三戸郷総鎮守の神社として古い歴史を持ち、三戸地方の人々の厚い尊崇を受けています。また、会津藩校日新館杉原凱教授の眠る墓や会津藩士の招魂碑があります。**絵馬堂**には、大型絵馬が多数展示されています。



戊辰戦争が終結し新政府の命により、「会津藩」は「斗南藩」となり新封土に移住を開始した。その会津藩所縁の**悟真寺**の鎮魂碑の墓石は、城山の石を譲り受け藩士たちが、コロを使い寺まで苦勞して運んだそうです。



大正時代に建造された佐滝邸別館を、横に見ながら城山公園へ移動です。





城山公園には綱御門を經由し入りました。

目時駅から城山公園までおよそ10kmの4時間の道のり、お疲れ様でした。素朴なひつまみとみそ焼きおにぎりを、とても美味しく頂きました。一緒に汗を流した、初めての仲間との交流も楽しみの一つです。



最後に、城山公園にある温故館の見学でした。三戸城跡の築城の状況・目的等外観について、説明を受けたあと中での南部氏の歴史に触れました。残念な事に、10kmの歩きは厳しかったようで、参加者が半分でした。この後、貸し切りバスで三戸駅まで移動し青い森鉄道に乗車となりました。

4 事業の検証

(1) アンケート調査の結果と検証

① 教育旅行ツアーアンケート調査結果は、次のとおりである。

アンケート質問	集 計	備 考	
ツアーの全体の印象	大変良い	57%	
	良い	28%	
	普通	3%	
全体のスケジュール	大変良い	32%	時間的に強行ではとの意見あり。
	良い	43%	
	普通	18%	
	悪い	3%	
街道歩きで一番期待したのは (上位3位まであげています。)	・籠立て場	25%	
	・山の景色	25%	
	・三戸の歴史探訪	18%	
街道歩きで一番良かったのは	・籠立て場	21%	
	・寺・神社での歴史	18%	
	・茶屋・昔っ子	10%	
この教育旅行を、小学生・中学生に行う事で得られるものはあると思いますか。	・ある	82%	
	・ない	0%	
	・どちらでもない	7%	
期待できる事は何だと思われるか	・地域の歴史を知る	50%	
	・自然との触れ合い	10%	
	・郷土を誇りに思う	10%	
	・奥州街道を通じ想像力を育む	7%	
	・現代の便利さに感謝	7%	
	・達成感		
	・協調性を養う		
・交流	等各 3.5%		
有料だとしたら いくらですか？	500円未満	18%	
	～1000円	32%	
	～1500円	28%	
	～2000円	10%	

教育旅行ツアー感想（重複部分は除く）

- ・ 大変良かったと思う
- ・ 天候に恵まれ、歩き始めはスムーズ、農道を歩きながら景色を堪能、疲れを感じる事はなかったが、国道に出たからは疲れが足にきた感じ、さすがに三戸大神宮に付いた時は疲れました。しかし、途中のスタッフの気配りや、茶屋、甘酒、お餅などには感謝でした。
- ・ 仕事・仕事の生活に疲れ、むなしさも覚えていたこの頃、思い切って出てきました。知らない人たちの優しさに触れ、とても癒してもらいました。
- ・ 籠立て場から町までの歩きが多すぎる。歩きで線を繋ぐのではなく、車移動もあっていいのではないか。
- ・ 歩きで通すなら、トイレ休憩の場を考えるべき。
- ・ 籠立て場を中心としたコースと町内の史跡めぐりを中心にしたコース、欲張らずゆっくり体験する楽しめるコースが良い。
- ・ 小・中学生、遠足になら良いのでは。
- ・ 最後の方は少しきつuitと感じた。しかし、有意義でよかったと思う。
- ・ ずっと楽しみにしていました。和やかな雰囲気の中、皆さんと過ごせ、終始穏やかな気持ちでいられました。
- ・ 茶屋の演出は素晴らしく感動し、情緒を満喫できました。
- ・ 食事はとても美味しかった。
- ・ お土産の購入できて良かった。
- ・ 坂道が多いのできつuit。事前に行程の中に距離数があった方が、準備が出来ると思う。
- ・ 宮司さんの話の時はマイクが必要。
- ・ 途中の見学場所でもう少し時間が欲しい。
- ・ 食事の時間、もう少し早いほうが良い。
- ・ コース的には厳しいが、途中、茶屋があったりで楽しめた。昼食も最高。
- ・ 歩く事で、五感が発揮されました。子ども達に勧めたほうが良いと思う。
- ・ 寺一神社一寺と説明が続くので、何かあきさせない工夫があれば良いと思う。
- ・ 歩く事で普段と違う発見があった。いろいろな物をいろいろな視点で見ながら歩く事が出来た。
- ・ 自分の住んでいる三戸町の歴史の中を歩きながらめぐる事は、良い体験でした。
- ・ 籠立て場は、絶景でした。何回来ても良い印象を持ち帰ることが出来ると思う。
- ・ 三戸町地域資源発掘会議おっほの会の皆さんの連携、まとまりに大変感心しました。特に昼食はとても美味しかったです。
- ・ スタッフの一生懸命さが伝わるが、料金を取るときはスムーズにした方が良い。

② 教育旅行のアンケート結果の分析

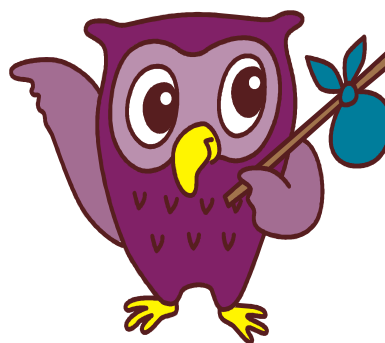
アンケート結果を元にし分析を行う。

- ・総合的に良かったとの評価を得ることが出来ている。但し、行程の厳しさがあるとの意見から、今後は、年齢別のコースを設定し、教育関係者に提案していく必要がある。
- ・アンケート結果に現れていたように、82%の方が、今の小・中学生に行う事で得られるものがあると答えている。得られるものとは、地域の歴史・自然・郷土愛との答えから、まずは、地域の小学生・中学生・高校生に対し、地域の歴史・自然・文化に触れる機会の提供から始めることが望ましいと考えられる。
- ・利用料金であるが、アンケート結果では、～1000円が32%、～1500円が28%となっている。人数にもよるが、40人クラスとして考えた場合、一人1500円で採算が取れる計算となる。

(2) 三戸地域資源発掘会議おっほの会（コアメンバー）の検証

前述したアンケート結果を元に、三戸地域資源発掘会議おっほの会（コアメンバー）による検証を行う。

- ・国道を歩くときは、危険性もあり疲れを感じやすいため、バス移動を考えるべきでした。（農免道路も含む）
- ・欲張りすぎた。
- ・コースを二つにした方が良かった。
- ・やはり、トイレは必要だった。
- ・草笛など楽しみがあっても良かった。
- ・コーヒーやお菓子が食べられる場所が欲しいと感じた。（佐瀧家など）
- ・サイダーや駄菓子もいいのでは？
- ・救護班から、車に救護班のマークは必要。（他車に迷惑となる。）
- ・地域子ども達にとっては、歩きながら自分達が住んでいる地域を見直す機会が重要と考えられる。
- ・三戸町の公共施設を有効に活用した組み合わせが必要と考える。
（城山公園内の茶室の活用 ets）



5 事業の検証を踏まえた展開

事業の検証を行いながら、ツアーの方向性を話あいました。

(1) 教育旅行主要ポイントと改善点

・三戸町の歴史は、誇れるものが多いことから時間を必要とするため、ポイントを絞っていくことにし、主要ポイントを次の通りにします。

〈小学生を対象とした場合〉

- ・対象：5～6年生
- ・目時駅～籠立て場～沼尻まで徒歩
- ・沼尻～城山公園バス利用
- ・昼食（味噌おにぎり・ひつつみ）
- ・民族資料館で南部藩の歴史を学ぶ

〈中学生・高校生を対象とした場合〉

- ・目時駅～籠立て場～沼尻まで徒歩
- ・沼尻～城山公園までバス移動
- ・昼食（味噌おにぎり・ひつつみ）
- ・徒歩で会津三碑巡りで戊辰戦争の戦後処理を知る。

（三戸大神宮で絵馬体験）



(2) 駅からハイキングのポイント

- ・金田一温泉駅～籠立て場～目時駅
- ・目時駅～薬師堂～果樹もぎ体験
- ・三戸駅（バス移動）～泉山果樹体験～能勢観音～（バス移動）目時駅
- ・ポイントに必ずある昔話を探し出す。



6 終わりに

昨年度に引き続き青い森鉄道の利活用を促進する事業に参加させていただき、青い森鉄道の存在を更に強く意識するようになりました。

青い森鉄道は、次世代へと引き継がれる財産であります。私たちは、便利さを求めるあまり鉄道の役割を忘れてしまい、私たち自身が、青い森鉄道に危機を与えている事に、気づかなければなりません。青い森鉄道は、生活の足であり、癒しの旅の手段でもあります。確かに、文明が発達し交通手段が多くなっている現代において、青い森鉄道では私たちのニーズに答える事が難しくなっています。しかし、年々減少しているとは言え、通勤・通学手段として利用している方も少なくはありません。その他、青い森鉄道が必要となる事が個々によって出てくると思われます。そんな時に、必要な時に青い森鉄道が存続している為にはどうした良いのか、地域全体で考えて見なければなりません。

そのためには、行政と民間団体と連携を取り、地域住民に働きかけて行かなければ、成果は得られないと考えます。行政だけ、民間だけでは、厳しい状況なのではないでしょうか。多くの団体が、協働する事で、成果を見ることが、津軽鉄道の例でも見られています。

私たちは、今回のこの取り組みの中で、三戸町総務課、三戸町教育委員会、三戸神社仏閣、地元商店街、地元南部バスさんとの連携を図ったことが、事業の成果を導いたと考えています。点を線としてつなげる事で、其々が個々の特性を活かし役割を担うことができました。

また、祥鷹閣という、普段開放されない場所の利用をはかる事で、公共施設の利用促進に繋げる事ができるのではないかと考えています。

私たちは、相互関係の中で生活しています。自己中心的では、社会が乱れてしまいます。私だけではなく、私たちみんなのために、鉄道を利用する機会をつくって行く事が、第一歩です。今回の取り組みの成果を、教育関係者と連携をとりながら、青い森鉄道沿線の歴史・文化を訪ねる事を、教育カリキュラムに加える等、継続しアクションする事で、鉄道に元気が出てくると確信しています。

三戸町は、二つの駅で囲まれています。入り口には三戸駅、出口には目時駅です。この二つの駅を通し三戸町を巡ることも出来ます。また、隣の岩手県、いわて銀河鉄道と連携することも必要と考えます。

今後、行政・各地域団体と連携をとりながら、教育旅行や駅からハイキングなど、メニューを整え、鉄道だけではなく公共交通全般の利用促進を図るよう、引き続きアクションを起こし、三戸町を元気にしていきます。